

● 三重県関係で国の登録有形文化財（建造物）の新登録の答申が行われるものの概要

【名称】	旧猪子家住宅主屋（きゅういのこけじゅうたくしゅおく）	1棟
	旧猪子家住宅土蔵（きゅういのこけじゅうたくどぞう）	1棟
	旧猪子家住宅門柱（きゅういのこけじゅうたくもんちゅう）	1基

【所在地】志摩市阿児町神明

【年代】主屋：昭和9年／昭和中期・平成27～29年改修

土蔵：昭和9年、門柱：昭和9年

【建築面積】主屋：95.2㎡、土蔵：19.8㎡、門柱：間口3.0m

旧猪子家住宅は、明治13年に四国で生まれ、保険会社の各地の支店長などの要職を歴任した猪子彌平（いのこやへい）氏の退職後の住居として、昭和9年に英虞湾（あごわん）を見下ろす高台の南斜面に建築された住宅です。

主屋は木造平屋建てで、張り出した玄関と台所部のそれぞれに入母屋の屋根を架け、変化に富んだ外観となっています。内部には、床の間・付書院（つけしょいん）・松竹梅などの彫刻を施した欄間（らんま）を持つ和室と、漆喰塗壁（しっくいぬりかべ）・漆塗り仕上げの格天井（ごうてんじょう）の洋間である旧書斎などがあり、和洋の上質な意匠を併せ持っています。第二次世界大戦後に伊勢志摩国立公園となり、保養地としての利用が進むこの地域の和洋折衷の建物の先駆けとして、造形の規範となる建物です。

主屋の西には、2階建てで寄棟（よせむね）屋根の土蔵が主屋に面して建っています。敷地西面に建つ門柱は、主柱（おもばしら）の上に笠石（かさいし）を載せ、側面を瘤出（こぶだ）し仕上げとした重厚なもので、街路の歴史的景観に良好な影響を与えています。



主屋正面 玄関の、向かって左側が和室、右側が洋間（南から）



入母屋屋根が続く外観、手前は台所部、奥の建物は土蔵（北東から）



床の間、付書院を持つ和室



旧書齋の洋間



土蔵外観（東から）



門柱から敷地内を望む（南西から）